

県内の遺跡・遺物 16

おき はら 沖ノ原遺跡

所在地：中魚沼郡津南町大字赤沢字沖の原

国指定：昭和 53 年 5 月 11 日

沖ノ原遺跡は、信濃川流域に発達した河岸段丘上に位置する縄文時代中期の大集落跡です。この遺跡は、環状に住居跡がめぐり、その規模は直径 120 m にも及ぶものです。昭和 47～48 年にかけて 3 回にわたり発掘調査が行われ、49 軒の竪穴住居跡、3 軒の長方形大型家屋跡と 1 軒の敷石住居跡などを検出しました。住居跡は全体で 200 軒ほどと推定されています。また、火焰土器・屋外埋設土器・土偶などや環状石斧・石棒などが出土しました。これらの遺物は県指定となっています。

第 1 号住居跡中央の大型馬蹄形複式炉は長軸 190 cm、短軸 120 cm もあります。炉の周辺からはむき身のクリやクッキー状の炭化物が多量に出土しました。本遺跡は、縄文時代中期の積雪地における村落形態を示すだけでなく、生活環境や社会生活を知る上で重要な資料となりました。



馬蹄形複式炉のある住居跡

(写真提供：津南町教育委員会)

あとかき

今年度もいくつかの遺跡がマスコミに話題を提供しました。そのほかにも県内で多くの遺跡が調査されたことが「発掘調査一覧」から理解していただけるものと思います。まもなくタイヤをはきかえ、新年度の発掘調査に向かいます。祖先が築いた歴史の重みを感じつつ。
(S & T)

埋文にいがた No.18

発行 (財) 新潟県埋蔵文化財調査事業団
〒956 新津市金津93番地1
TEL (0250) 25 - 3981
FAX (0250) 25 - 3986
印刷 有限会社 双葉印刷